

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	地 理
----	-----

総 括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	文 200点, 情報(社会) 400点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

作図問題において分量が減ったが、その他の記述問題はやや書く分量が多く、まとめにくい設問もみられた。

〈特記事項・トピックス〉

問題Ⅰの問4は、判断が難しく、受験生のレベルを超えた出題である。

問題Ⅰ・・・昭和22年発行の2万5千分の1地形図を使用。

〈合格への学習対策〉

教科書、地図帳、資料集を活用して、基本事項をおさえた幅広い分野の学習を心がけたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	選択・論述	扇状地の読図	古い地形図を用いて、土地利用や地形、勾配が問われた。解答に時間の要するものが多かった。	やや難
Ⅱ	記述・論述	EUとヨーロッパの水産業	問1、問2ではEU拡大の過程について正しい知識が要求された。	標準
Ⅲ	選択・論述	東南アジアの経済	頻出分野からの出題。 問1がややまとめにくい。	やや難
Ⅳ	記述・論述	北緯50度以上の地域の自然環境	全体的に平易で答えやすい設問が多かった。問3の作図では心射図法の特徴がポイントである。	易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。